

この本の効果的な使い方

この『実力完成問題集』は、『予習シリーズ6年下』の各回の内容に対応した問題集として利用できます。また、中学入試問題で多く出題されるテーマを集めてあるので、志望校でよく出題されるテーマや、自分の弱点を補強するための問題集としても利用できます。

① この本の構成

● 5ページ

『予習シリーズ6年下』の各回との対応表があります。

● 6ページ～37ページ

『予習シリーズ6年下』の第1回～第8回は、分野ごとの復習となっています。各回に準拠した内容を2段階のレベルに分けて取りあげています。

標準問題……各回の学習で必ず身につけておきたい内容が出題されています。

発展問題……各回の学習でより理解力を必要とする内容が出題されています。

● 38ページ～53ページ

『予習シリーズ6年下』の第9回～第12回は、総合的な観点からの復習となっています。各回で学習する内容のうち、最も中心的な内容が取りあげられています。

● 54ページ～101ページ

入試問題で多く出題されるテーマが取りあげられています。

これまで学習した内容が、あるテーマにそって出題されています。いろいろなことがらを、さまざまな方向から確認することで、理解を深め、入試問題に対応できる実力を養います。

② 解答・解説の活用を

問題を解いた後、必ず答え合わせをしましょう。そして、できなかった問題を中心に、もう一度見直しをしましょう。「解答・解説」には、学習のヒントや関連することがらが多くついています。必ず目を通して、理解を深めておきましょう。

目次

<予習シリーズ6年下 第1回～第8回 対応>

予習シリーズの回数

地理	日本の産業	6	(第1回)
	国土と環境	10	(第4回)
	都道府県と地形図	14	(第7回)
歴史	政治史	18	(第2回)
	産業・農民史	22	(第5回)
	外交史・文化史	26	(第8回)
国際政治	日本の政治	30	(第3回)
	今日の国際社会	34	(第6回)

<予習シリーズ6年下 第9回～第12回 対応>

総合	自然とともに生きる	38	(第9回)
	歴史に学んで生きる	42	(第10回)
	地域とともに生きる	46	(第11回)
	人とともに生きる	50	(第12回)

<中学入試で出題の多いテーマ>

地理中心	ドットマップでわかる日本のすがた	54	(第1回)
	美しい国土	56	(第4回)
	循環型社会と地球の環境問題	58	(第4回)
	クルマ社会	60	(第1回)
	うつりかわる風景	62	(第9回)
歴史中心	食べ物と食生活の歴史	64	(第8回)
	貨幣とその流通史	66	(第5回)
	交通・通信の歴史	68	(第5回)
	住居・建築からみる文化史	70	(第8回)
	女性史	72	(第10回)
	日本の鉄づくり	74	(第10回)
	産業や景気からみる歴史	76	(第5回)
	絵画からみた歴史	78	(第8回)
史料からみた歴史	80	(第2回)	
政治国際中心	投票率と民主政治	82	(第3回)
	地方分権と市町村合併	84	(第11回)
	住民投票をめぐって	86	(第3回)
	人口のうつりかわり	88	(第11回)
	少子・高齢社会と財政	90	(第3回)
	世界の国々	92	(第6回)
総合	国際紛争と国連の課題	94	(第6回)
	首都・東京	96	(第7回)
	国民の祝日	98	(第11回)
	差別と平等	100	(第12回)
	解答・解説	103	

『予習シリーズ6年下』との対応表

『予習シリーズ6年下』は、これまでの学習内容をより効果的に復習できるように、地理・歴史・政治国際の三分野をらせん型に配置しています。

『実力完成問題集』を『予習シリーズ6年下』に準拠した問題集として利用する場合、次の対応表を参考にして、学習をすすめましょう。

回	予習シリーズのタイトル	対応しているページ	関連のあるテーマのページ
1	日本の産業	6~9	54・55 60・61
2	歴史はくりかえす	18~21	80・81
3	日本の政治	30~33	82・83 86・87 90・91
4	国土と環境	10~13	56・57 58・59
5	歴史をささえた民衆	22~25	66・67 68・69 76・77
6	今日の国際社会	34~37	92・93 94・95
7	都道府県と地形図	14~17	96・97
8	海外との交流	26~29	64・65 70・71 78・79
9	自然とともに生きる	38~41	62・63
10	歴史に学んで生きる	42~45	72・73 74・75
11	地域とともに生きる	46~49	84・85 88・89 98・99
12	人とともに生きる	50~53	100・101

1 次の文を読んで、後の問いに答えなさい。

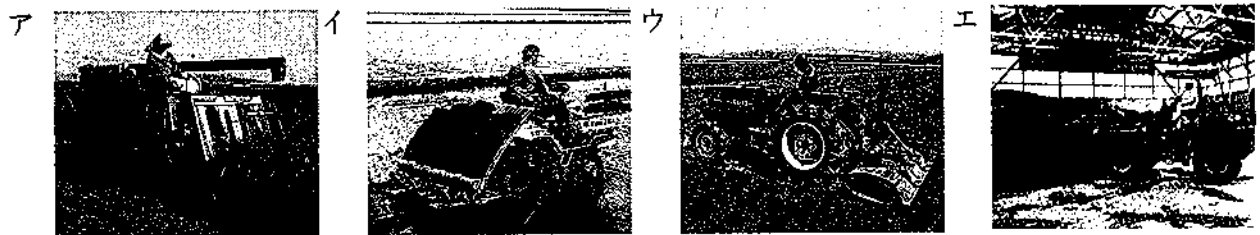
稲は本来、暖かいところで育つ植物です。しかし、日本で米の生産量が多いのは、北陸地方や東北地方・北海道地方です。これは、これらの地域は①広い平野や大きな川が多いことに加え、栽培方法を工夫し、寒さに強いように **A** した苗を植えているからです。

昔と今とでは、米づくりの作業のようすがかなり変わってきました。まず、苗づくりです。以前は苗代の床を少しあげ、その上へ種もみをまき、上に油紙などをかぶせて育てる保温苗代で苗を育てていました。現在では、**B** で植えるのに便利のように、育苗箱に種もみをまき、ビニールハウスの中で育てています。②稲が育つ時期の作業では、**C** をまいて、雑草が生えたり稲が病気になったりしないようにしました。現在では、**C** をあまり使わない、あいがも農法を行っている農家もあります。稲刈りのようすも変わりました。昔は、人の手で**D** を使って稲刈りをしました。現在では、コンバインで稲刈りと脱穀を一度に行います。

米をとりまく環境も大きく変化してきました。1995年から③米の輸入が始まり、1999年には米輸入の関税化が行われました。また、棚田は、農業機械が使いづらいなどの理由から耕作が放棄されているところも多くありました。しかし、④そのはたらきが見直され、現在、棚田を守る動きが広まっています。

問1 **A**・**C** にあてはまることばをそれぞれ答えなさい。

問2 **B** にあてはまる農業機械を次から選んで、記号で答えなさい。



問3 **D** にあてはまる農具を次から選んで、記号で答えなさい。

ア 鋤 イ 鋤 ウ 鎌 エ 臼

問4 下線①について、米づくりがさかんな平野とその平野を流れる川の組み合わせとして正しいものを次から選んで、記号で答えなさい。

ア 石狩平野－十勝川 イ 仙台平野－北上川
ウ 庄内平野－信濃川 エ 秋田平野－筑後川

問5 下線②について、稲の穂が出る前に水田の水をぬき、中干しという作業を行います。この作業を行う目的を簡単に説明しなさい。

問6 下線③について、日本にとって米の輸入先第1位の国を次から選んで、記号で答えなさい。

ア 中国 イ タイ ウ 韓国 エ アメリカ

問7 下線④について、水田のはたらきとして正しくないものを次から選んで、記号で答えなさい。

ア 地震を防ぐ イ 洪水を防ぐ ウ 生き物を育て エ 地下水を豊かにする

2 次の文を読んで、後の問いに答えなさい。

日本は、①工業の原料や燃料を輸入し、工業製品を輸出する A 貿易を行ってきました。現在では、②輸出品のほとんどが工業製品で、機械類や自動車とその部品・精密機械などを合わせると、輸出額の約3分の2をしめています。このうち、高い技術が必要な集積回路なども多くなっています。

一方、輸入品では、輸入額の4分の1近くを機械類がしめています。この理由の一つは、③日本の企業が、国内からアジア諸国など海外へ工場を移転させるようになったからです。特に、現在「世界の工場」とよばれる中国には、日本を含め各国から工場の進出があいついでいます。機械類などの工業製品の輸入が増えた結果、かつて大きな割合をしめていた④エネルギー資源の輸入額における割合は減少しました。

問1 A にあてはまることばを答えなさい。

問2 下線①に便利なように、太平洋ベルトを中心に工業地帯や工業地域が形成されました。これについて、次の問いに答えなさい。

1 次の文にあてはまる工業地帯・工業地域の名をそれぞれ答えなさい。

I 1999年から生産額が日本一になりました。機械工業の割合が特に多くなっています。

II 湾に面した埋め立て地に大工場が建てられ、発達してきました。化学工業の割合が最も多いことが特色です。

2 太平洋ベルトだけでなく、九州や東北地方など、日本各地に広く分布している工場として最も適切なものを次から選んで、記号で答えなさい。

- ア 自動車工場 イ IC工場 ウ 石油化学工場 エ 製鉄所

問3 下線②について、表の①が

おもな貿易港の輸出品目 (2005年)

示す貿易港を次から選んで、記号で答えなさい。ただし、⑤～②には、ア～エのいずれかがあてはまります。

港	おもな輸出品目 (%)
⑤	集積回路(11.8), 精密機械(9.3), 映像記録・再生機器(5.5)
①	自動車(18.2), 自動車部品(7.2), 内燃機関* (4.1)
③	コンピューター部品(8.7), 自動車部品(6.4), プラスチック(5.1)
②	織物類(4.7), プラスチック(4.5), 建設・鉱山用機械(3.8)

- ア 東京 イ 神戸
ウ 成田 エ 横浜

*内燃機関…エンジンなど

問4 下線③の影響として正しくないものを次から選んで、記号で答えなさい。

ア 安い外国産の製品に対抗するため、政府が中心となってアジア諸国の労働者の受け入れをすすめています。

イ 大工場が閉鎖された地方公共団体では、税金の収入が減り、財政が苦しくなっているところもあります。

ウ 海外にある日本の工場で生産した製品を、日本が輸入する「逆輸入」が行われています。

エ 現地生産が行われることによって、移転先の国では工業の発達に役立つ面があります。

問5 下線④について、日本が輸入している資源とおもな輸入先の組み合わせとして正しくないものを次から選んで、記号で答えなさい。

- ア 原油-サウジアラビア イ 石炭-オーストラリア ウ 液化天然ガス-ブラジル

調味料や食べ物について述べた次の文を読んで、後の問いに答えなさい。

調味料

調味料の「さ・し・す・せ・そ」とは、「砂糖」・「塩」・「酢」・「醤油（せうゆ※）」・「味噌」のことです。砂糖の原料は、さとうきびやてんさいで、①日本はこの両方を栽培している、世界でもめずらしい国です。塩は、生命の維持に欠かせない調味料です。日本には岩塩がないので、昔から塩をAからつくっています。しかし、多くはメキシコやオーストラリアなどから輸入されています。日本で使われる酢の多くは、米からつくられてきました。醤油は、日本食には欠かせません。醤油も味噌も、おもにBからつくられます。 ※「せうゆ」と書いて「しょうゆ」と読みます。

問1 A・Bにあてはまることばをそれぞれ漢字2字で答えなさい。

問2 下線①について、日本でさとうきびとてんさいの両方を栽培できるおもな理由を次から選んで、記号で答えなさい。

- ア まわりを海に囲まれているから。
- イ 北半球に位置しているから。
- ウ 日本列島が南北に長いから。
- エ 世界的にみても、降水量が多いから。

野菜

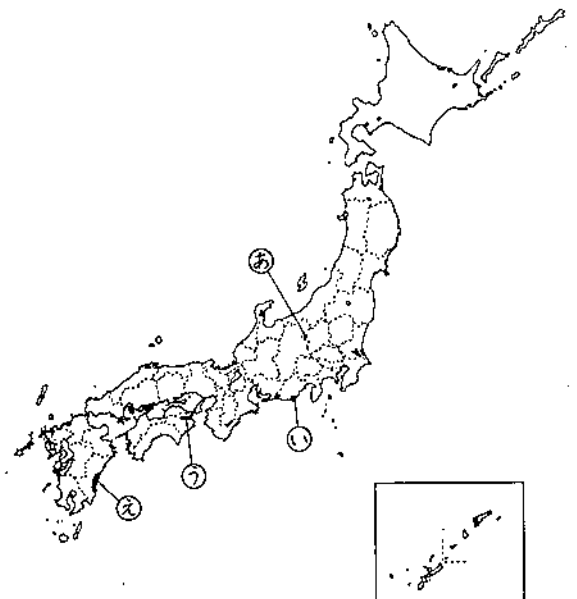
「旬」とは、食べ物がたくさんとれて、最も味のよい時期のことです。たとえば、トマトの旬は夏です。旬の野菜には、最も栄養が多いといわれています。しかし現在では、お店に行けば、季節に関係なく、たいていの野菜を買い求めることができます。②高冷地農業や促成栽培によってつくられたものや、③外国から輸入されたものなどがあるからです。外国から輸入される野菜に対しては、安全性を心配する声もあり、④有機栽培された野菜を買い求める消費者もいます。

問3 右の地図を見て、下線②について述べた文として正しいものを次から選んで、記号で答えなさい。

- ア ⑥の嬬恋村では、高冷地農業でキャベツが夏を中心にさかんに生産されています。
- イ ①の野辺山原では、高冷地農業でなすやピーマンが栽培されています。
- ウ ⑤の高知平野では、冬を中心に促成栽培でレタスやはくさいが生産されています。
- エ ②の宮崎平野では、夏を中心に促成栽培でピーマンやかぼちゃが栽培されています。

問4 下線③について、日本にとって野菜の輸入先第1位の国の名を答えなさい。

問5 下線④について、有機栽培された農産物には、有機JASマークをつけて販売することが認められています。この有機栽培とは、どのような栽培方法のことですか。簡単に説明しなさい。



肉類

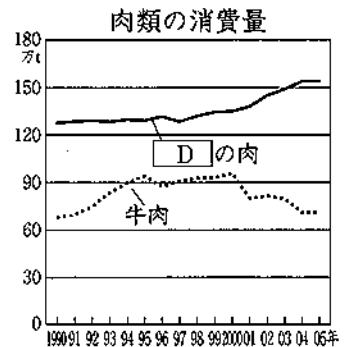
BSEや鳥インフルエンザなど、家畜がかかる病気は、わたしたちの食生活に大きな影響をあたえています。2001年に日本でBSEにかかった牛が発見されたとき、消費者の不安が高まり、牛肉の消費量は大きく落ちこみました。そのため、牛の全頭検査を行うなど、食の安全に関する取り組みに力が入られました。また、2003年には、日本が多くの牛肉を輸入していたCでBSEにかかった牛が発見され、Cからの牛肉の輸入が禁止されました。2006年には輸入が再開されましたが、その安全性に不安を感じる消費者もまだ多くいます。

問6 Cにあてはまる国の名を答えなさい。

問7 下線⑤について、日本の牛肉生産について述べた文として正しくないものを次から選んで、記号で答えなさい。

- ア 外国産の牛肉におされているため、農家一戸あたりの肉牛の飼育頭数は減少しています。
- イ 松阪牛など、高級な肉を生産して、外国産の牛肉との競争で生き残りを図る地域もあります。
- ウ 肉牛の飼育頭数の多い都道府県は、北海道・鹿児島県・宮崎県などです。

問8 下線⑥について、右のグラフを見ると、BSEの影響で牛肉の消費量が落ちこんだことがわかります。それに対して、日本で最も多く消費されているDの肉は、安定して消費されています。Dにあてはまる家畜の名を答えなさい。



魚 (水産業)

日本人にとって、昔から魚は貴重なたんぱく源でした。日本近海は、世界的にも魚の多いめがまされた海です。しかし、漁業人口の減少や、赤潮など、海のよごれが問題となっています。世界有数の漁獲量があるにもかかわらず、日本は多くの水産物を輸入しています。近年は、安全性に対する消費者の厳しい目にさらされているため、外国での養殖の場合でも、薬品を使っていないことを強調している輸入水産物もあります。

問9 下線⑦について述べた文として正しくないものを次から選んで、記号で答えなさい。

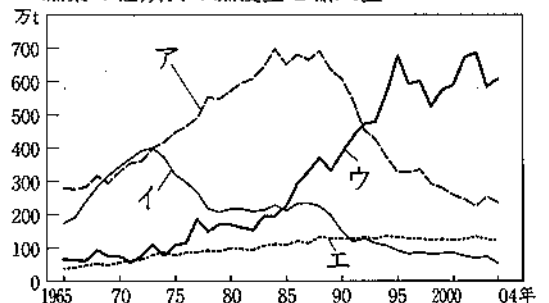
- ア 日本海沿岸には流氷がおしよせるため、漁の期間が制限され、水産資源の保護につながります。
- イ 大陸棚が広がる東シナ海は、よい漁場となっており、中国の漁船もさかんに操業しています。
- ウ 三陸沖から銚子沖の太平洋には、南からの黒潮と北からの親潮のぶつかる潮目があります。

問10 下線⑧について、輸入量を示すものを右のグラフから選んで、記号で答えなさい。ただし、ほかの三つは遠洋漁業・沖合漁業・養殖漁業の漁獲量を示しています。

問11 日本が輸入しているさまざまな食料品の中で、輸入額が最も多いものを次から選んで、記号で答えなさい。

- ア くだもの
- イ 魚介類
- ウ 肉類
- エ 野菜

漁業の種類別の漁獲量と輸入量



次の文を読んで、後の問いに答えなさい。

A 大陸の東に位置する日本は、①本州・北海道・九州・四国の4つの島と、②その他の多くの島々から成り立っています。③北方領土を含めた国土面積は約37万8千km²ですが、④経済水域まで考えると、日本の領域はその12倍近くにもなります。また、⑤リアス海岸が多く海岸線が複雑な日本は、国土面積がせまいわりに、海岸線が長くなっています。

環太平洋造山帯に属している日本では、火山活動が活発で、地震もよく起こります。⑥火山と関係がある国立公園も多く見られます。また、山がちな国土で平地はとぼしく、山にかこまれた⑦盆地、海沿いに発達した平野、一段高くなった⑧台地などの地形が見られます。国土の多くは、⑨針葉樹や広葉樹の森林におおわれ、世界でも有数の森林国となっています。

日本のおもな⑩河川は、日本列島の中央に連なる高い山地から流れ出ています。大陸の河川とくらべると短く、流れは急です。大雨のときには急に水かさが増え、山地がらげずりとられた大量の⑪土砂が運ばれます。このようにして、河川は扇状地や三角州などをつくりだします。また、日本の⑫湖の多くは、観光や漁業、発電、水源などに利用されています。

問1 A にあてはまることばをカタカナで答えなさい。

問2 下線①について、本州の面積は四国の約何倍になりますか。次から選んで、記号で答えなさい。

- ア 約4倍 イ 約8倍 ウ 約12倍 エ 約16倍

問3 下線②について、次の文が述べている島の名をそれぞれ漢字で答えなさい。さらに、その島の形をそれぞれ下から選んで、記号で答えなさい。

- 日本海最大の島です。日蓮や世阿弥が流されたことや、金山があったことで知られています。ときの人工繁殖が行われています。また、島全体が一つの都市となっています。
- 1543年に、ポルトガル人によって鉄砲が伝えられたことで知られています。宇宙センターがあり、人工衛星打ち上げのための基地となっています。



(縮尺は同じではない。上がほぼ北。)

問4 下線③の面積は、合わせて約5000km²あります。北方領土に最も近い面積をもつ都道府県を次から選んで、記号で答えなさい。

- ア 岩手県 イ 東京都 ウ 長野県 エ 福岡県

問5 下線④は、海岸から200カイリ(約370km)までの水域です。これは東京からどの都市までの直線距離とほぼ同じですか。次から選んで、記号で答えなさい。

- ア 名古屋 イ 京都 ウ 広島 エ 那覇

日本の産業

標準問題 [6ページ]

1

- 問1 A 品種改良 C 農薬
問2 イ 問3 ウ 問4 イ
問5 稲の根がのびて、栄養分をよく吸収できるようにするため。
問6 エ 問7 ア

解説

- 問1 A 味がよい、倒れにくい、寒さに強いなど、目的にあった品種をつくり出すことを品種改良といいます。
C 稲を育てる際には、害虫や病気から稲を守るために、何回か農薬をまきます。農薬は使いすぎると人の健康に害をあたえる場合があるため、使う回数を減らす農家や、化学肥料や農薬を使わない有機農業を行う農家も多くみられます。
- 問2 育苗箱で育てられた苗を田植え機にセットして、田植えが行われます。近年は、田植えの労力をさらに軽減するため、長いマットに育苗し、苗をロール状に巻き取って田植え機にセットし、田植えを行う方法も実用化されています。
- 問3 鍬と鋤は、土地を耕す道具です。臼は、杵を用いて餅をついたり、穀物を精白したりする道具です。
- 問4 アを石狩川、ウを最上川、エを雄物川とすると、正しい組み合わせになります。
- 問5 中干しは、土の中にたまったガスを出し、酸素を土の中に行きわたらせるために行われます。これによって、稲の根がよくのびて、栄養分を多く取り入れることができるようになります。また、強く根をはるので、倒れにくい丈夫な稲に育てることができます。
- 問6 日本の米の輸入先第1位はアメリカで、タイ、中国が続きます(2005年)。
- 問7 日本の水田にたくわえられる水は、全国の

ダムの貯水量の約3倍といわれています。解答のほかにも、水田には、夏に気温が上がるのをおさえるはたらきもあります。また、近年では、^{ななだ}棚田のよさも見直されていて、1999年には農林水産省によって「日本の^{ななだ}棚田百選」が認定されました。現在、農業の実情と^{ななだ}棚田のはたらきについて広く知ってもらうため、都会に住む人に水田を貸し出すオーナー制度を取り入れているところがあります。

2

- 問1 加工
問2 1 I 中京工業地帯
II 京葉工業地域
2 イ
問3 エ 問4 ア 問5 ウ

解説

- 問1 加工貿易がさかんに行われていたころ、石油は長い間、日本の輸入品の第1位でした。1994年には機械類に変わり、輸入全体に占める製品の割合が高まっていった結果、加工貿易のすがたは薄れてきています。
- 問2 1 Iの中京工業地帯には、自動車工業のさかんな^{ななだ}企業城下町の豊田市があり、機械工業の割合が65%をこえています。IIの京葉工業地域では、市原市や袖ヶ浦市で石油化学工業がさかんに行われています。そのため、機械工業よりも化学工業の割合の方が多くなっています。
- 2 ほかの工業製品とくらべて軽く、重さあたりの価格も高いため、^{アィン}ICは航空機やトラックを使って輸送されています。したがって、空港の近くや高速道路のインターチェンジの近くなど内陸部も含めて、^{アィン}IC工場は日本各地に広く分布しています。
- 問3 ^{しやう}京浜工業地帯や関東内陸工業地域で生産された自動車が、^{よこはま}横浜港から輸出されています。④は成田、①は東京、②は^{かんとう}神戸です。
- 問4 海外に移転した日本の工場が生産された製

品を輸入することを逆輸入といいます。逆輸入の製品が増えていることも、加工貿易のすがたが薄れてきた原因の一つとなっています。日本の工場の海外への移転がすすむにつれて、移転先の工業の発達に役立つ反面、日本国内の産業がおとろえてしまう産業の空洞化が問題となりました。現在では、他国がまねできない高性能の製品など、付加価値の高い製品は、日本国内でつくろうという動きがみられます。

問5 液化天然ガスのおもな輸入先は、インドネシアです。

発展問題 [8ページ]

問1 A 海水 B 大豆

問2 ウ 問3 ア

問4 中国 (中華人民共和国)

問5 化学肥料や農薬などを使わずに、農作物をつくること。

問6 アメリカ (アメリカ合衆国)

問7 ア 問8 豚

問9 ア 問10 ウ 問11 イ

解説

問1 A かつて塩は、おもに塩田でつくられていました。塩田にまいた海水を日光や風によって水分を蒸発させ濃縮した後、釜で加熱して結晶化させました。その後、工業の発展とともに化学工業の原料として大量の塩が必要になったこともあり、塩の生産の中心は、天候に関係なく安定して生産できる、工場での化学的製塩法に変わりました。しかし、海水からつくられる塩にはミネラルなどの栄養分が豊富に含まれているため、現在でも、自然製塩が行われている地域もあります。

問2 日本列島は南北に長いので、同じ時期でも北と南では、気候が大きく異なります。北海道などではスケートやスキーをしている1月に、沖縄では桜祭りが行われることから気

候のちがいを感ずることが出来ます。

問3 イとウは、野辺山原や高知平野の位置が異なるところから判断できます。また、生産されている野菜が入れ替わっています。エの宮崎平野の位置は正しく示されていますが、促成栽培が行われるのは冬や春が中心です。

問5 化学肥料は作物の成長をはやめますが、使いすぎると土の中の微生物が少なくなってしまい、地力が衰えます。また、農薬は病虫害を予防する効果がありますが、使いすぎると人間の健康を害するおそれがあります。このような環境や健康に対する不安から、化学肥料や農薬を使わず、たい肥を使って土づくりをし、作物を育てる有機農業が行われるようになってきました。

問6 アメリカでBSEにかかった牛が発見されたことにより、2003年にアメリカ産の牛肉の輸入が停止されました。日本の牛肉消費量の約3割をしめていたアメリカ産牛肉の輸入が停止したことと、オーストラリアで干ばつが続き、牧草が不足気味になったことなどが重なり、輸入牛肉の価値が続きました。

問7 畜産専門の会社が大規模な経営を行うようになったこともあり、畜産農家の数は減っていますが、農家一戸あたりの飼育頭数は増えています。

問9 流氷は、北海道の北東のオホーツク海沿岸で見られます。

問10 漁獲量が減少する一方、水産物を多く消費する日本では、水産物の輸入が増えました。現在、日本では全漁獲量を上回るほどの水産物を輸入しています。アは沖合漁業、イは遠洋漁業、エは養殖漁業です。育てる漁業の一つである養殖漁業は、この40年ほどで、少しずつ増えてきていることに注目しましょう。

問11 日本が輸入している食料品の中で、最も金額が多いのが魚介類で、全輸入額の約3%をしめています。食料品では、ついで肉類、野菜、くだもの順になっています(2005年)。

国土と環境

標準問題 [10ページ]

問1 ユーラシア(アジア) 問2 ウ

問3 1 佐渡島・エ 2 種子島・ウ

問4 エ 問5 イ 問6 ア

問7 イ 問8 上川盆地 問9 イ

問10 1 ア

2 森林の土の中に含まれる栄養分が川から海に流れこみ、魚のえさを増やしている。

問11 1 エ・カ・ケ 2 イ・オ・サ

問12 ウ 問13 エ

解説

問1 日本はユーラシア大陸の東に位置する島国で、北東から南西に約3000kmにわたって島が弓なりに連なっています。

問2 四国・九州・北海道・本州の面積のおよその比は、1:2:4:12です。面積は四国を約2万km²とすると、順に4万km²・8万km²・24万km²で、合計38万km²となります。

問3 1 佐渡島の佐渡とき保護センターでは、ときの人工繁殖が行われています。最後の国産のときであるキンは死亡しましたが、中国から贈呈されたときを人工繁殖し、野生化をめざしています。また、2004年には佐渡島にあった10市町村が合併し、佐渡市が誕生しました。これにより、島内のすべての自治体が一緒になる一島一市に再編されました。

2 種子島には、日本最大のロケット打ち上げ発射場があります。

問4 日本の都道府県は、面積が大きい順に北海道・岩手県・福島県・長野県、面積が小さい順に香川県・大阪府・東京都です。アの岩手県とウの長野県の面積は1万km²以上あります。イの東京都は約2000km²です。

問5 東京から大阪までがおよそ400kmであることから考えます。

問6 ア 茨城県の沿岸部に見られる砂浜海岸を鹿島浦といい、その沖合いを鹿島灘といいます。

問7 アは支笏洞爺国立公園、ウは富士箱根伊豆国立公園、エは阿蘇くじゅう国立公園に含まれます。

問8 石狩川上流の上川盆地と下流の石狩平野は、米の生産地として有名です。

問9 イ 関東地方の内陸部には、からっ風を防ぐための屋敷森をもつ家が多くあります。からっ風は冬に北西から吹くため、屋敷森は家の西や北に見られます。

問10 1 青森県と秋田県の境にある白神山地には、貴重なぶなの原生林が残っています。白神山地は、世界遺産に登録されています。

2 川の上流の山に広葉樹があると、落ち葉が腐ってできる栄養分の豊かな土(腐葉土)の層ができます。雨水はこの層でろ過されて、栄養分とともに川に注ぎ、海に流れ込みます。その結果、魚のえさになるプランクトンが増え、養殖している魚介類の成長を助けたり、魚を集めたりすることにつながります。

問11 1 最上川は、米沢盆地・山形盆地・新庄盆地を流れ、庄内平野から日本海に注ぎます。河口には酒田市があります。

2 信濃川は、千曲川と犀川が長野盆地で合流し、越後平野から日本海に注ぎます。河口には新潟市があります。

問12 ダムの建設によって、上流から河口に供給される土砂の量が減り、海岸の浸食がすすむこととなります。その結果、砂丘が小さくなるという問題が起こっています。

問13 アの琵琶湖は、断層によってできた湖です。イの猪苗代湖からは、阿賀野川に合流する川が流れ出ています。ウのサロマ湖は、海岸近くにある汽水湖で、湖面の標高は0mです。